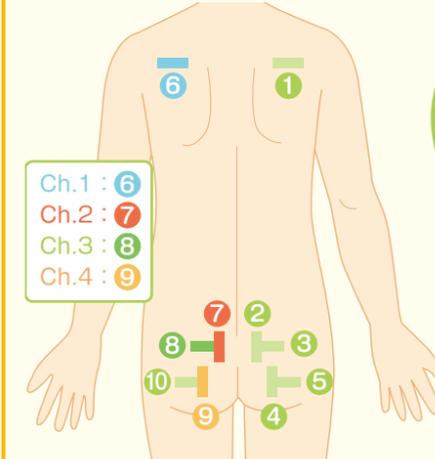


図8 小枕を用いた体位変換 (文献^{2,5)} を参考にして筆者作成)

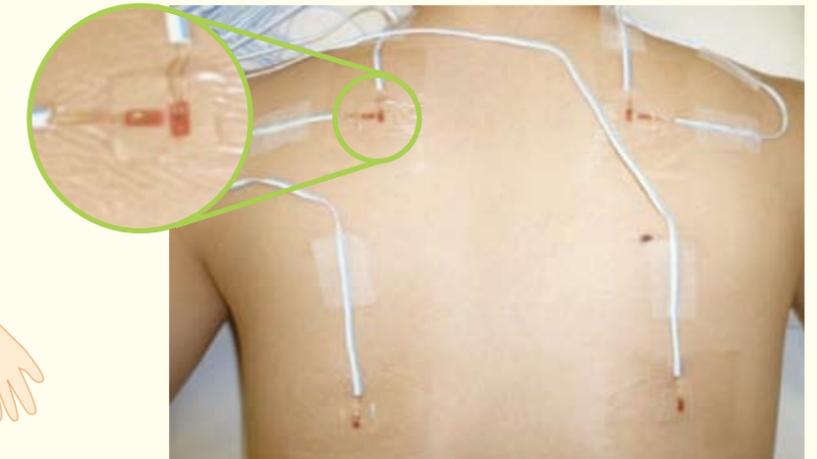
小枕をマットレス (布団) の下に出し入れする方法。わずかな傾斜がつくことで、肺理学療法的効果と筋肉への緊張・弛緩を刺激し、褥瘡予防に効果が期待できる

と、小枕の移動は『患者の身体がマットレスの下に、小枕をテコ代わりに置いて褥瘡を予防できる』とされ、『身体が圧迫されると脳細胞に信号が入り寝返りを打つのだ。「小枕の移動」

A 測定用プローブの貼付部位



B プローブ貼付の実際



C ずれ量の測定結果

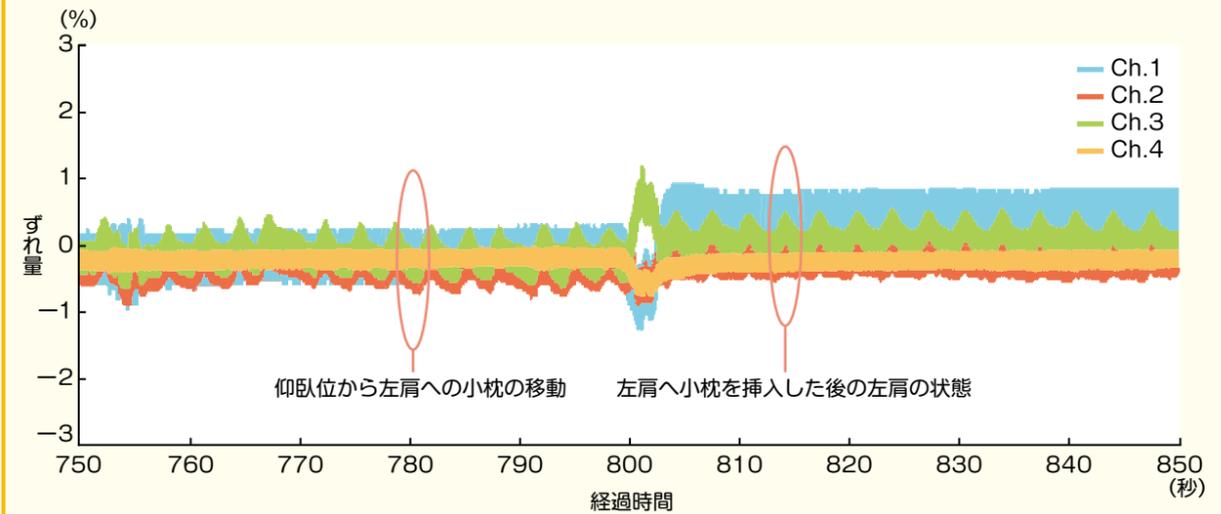


図9 小枕法によるずれの影響：ひずみ測定から

小枕を左肩に挿入すると、左肩付近の皮膚は左右方向に約1%のずれ量が生じ、わずかに引っ張られていることがわかる。他の部位はほとんど皮膚の変形が認められない

の利用で、身体の自然な動きを模倣して褥瘡をつくる危険性を減少させる』³⁾ 効果があるといわれています。マットレスの下に小枕を挿入することで、身体に直接圧迫部分を生じさせることを回避できるばかりでなく、ずれ力も生じないことが確認できました (図9)。頭側挙上

や半側臥位などを積極的に計画できない場合、このような小枕法も有効です。小枕を入れ替える時間には、決まりがありません。状態によっては2時間、もしくはそれ以上間隔を空けても褥瘡発生などへの影響がない場合には、看護師の訪室の際などとして。